



Cisco Unified SIP Proxy システムのメンテナンス

- 「設定のコピー」 (P.41)
- 「ハードディスク メモリの装着アクティビティの確認」 (P.43)

設定のコピー

スタートアップ コンフィギュレーションおよび実行コンフィギュレーションを Cisco Unified SIP Proxy モジュール上のハードディスク、ネットワーク FTP サーバ、およびネットワーク TFTP サーバにコピーしたり、これらからコピーしたりするには、モジュール EXEC コマンドを使用します。



(注)

使用している特定の TFTP サーバによっては、TFTP サーバ上で同じ名前のファイルを作成し、ファイルが正しい許可を持っていることを確認してから、実行コンフィギュレーションを TFTP サーバへ転送する必要があります。

- 「ハードディスクから別の場所へのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.41)
- 「ネットワーク FTP サーバから別の場所へのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.42)
- 「ハードディスクから別の場所への実行コンフィギュレーションのコピー」 (P.42)
- 「ネットワーク TFTP サーバから別の場所への実行コンフィギュレーションのコピー」 (P.43)

ハードディスクから別の場所へのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

モジュール EXEC モードで、次のコマンドを使用して、ハードディスク上のスタートアップ コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。

```
copy startup-config {ftp: user-id:password@ftp-server-url | tftp:tftp-server-url}
```

構文の説明

ftp: <i>user-id:password@</i>	FTP サーバのユーザ名およびパスワード。エントリに、コロン (:) とアットマーク (@) を含めます。
<i>ftp-server-url</i>	ディレクトリおよびファイル名を含む FTP サーバの URL。たとえば、 <code>ftps://server/dir/filename</code> です。
tftp: <i>tftp-server-url</i>	ディレクトリおよびファイル名を含む TFTP サーバの URL。たとえば、 <code>tftps://server/dir/filename</code> です。

このコマンドはインタラクティブであり、ユーザに情報の入力を求めます。パラメータは 1 行では入力できません。この例では、スタートアップ コンフィギュレーションが FTP サーバにコピーされます。FTP サーバは、ファイルを転送するためのユーザ名およびパスワードを要求します。スタートアップ コンフィギュレーション ファイルは、「start」というファイル名で FTP サーバ上に保存されます。

```
se-10-0-0-0> copy startup-config ftp
Address or name of remote host? admin:messaging@ftps://server/dir/start
Source filename? temp_start
```

次の例では、スタートアップ コンフィギュレーションが TFTP サーバにコピーされます。TFTP サーバは、ユーザ名およびパスワードを要求します。このコマンドは、「configs」という名前の TFTP ディレクトリに「temp_start」という名前のファイルとしてスタートアップ コンフィギュレーションを保存します。

```
se-10-0-0-0> copy startup-config tftp
Address or name of remote host? tftps://server/dir/temp_start
Source filename? temp_start
```

ネットワーク FTP サーバから別の場所へのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

モジュール EXEC モードで、次のコマンドを使用して、ネットワーク FTP サーバ上のスタートアップ コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。

```
copy ftp: {nvram:startup-config | running-config | startup-config | system:running-config}
```

このコマンドの詳細については、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。

このコマンドはインタラクティブであり、ユーザに情報の入力を求めます。パラメータは 1 行では入力できません。次の例は、このプロセスを示しています。この例では、FTP サーバはユーザ名およびパスワードを要求します。このコマンドは、「congifs」という名前の FTP サーバ ディレクトリに存在する「start」という名前のファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

```
se-10-0-0-0> copy ftp: startup-config
!!!WARNING!!! This operation will overwrite your startup configuration.
Do you wish to continue[y]? y
Address or name of remote host? admin:messaging@tftps://server/configs
Source filename? start
```

ハード ディスクから別の場所への実行コンフィギュレーションのコピー

モジュール EXEC モードで、次のコマンドを使用して、ハード ディスク上の実行コンフィギュレーションを別の場所にコピーします。

```
copy running-config {ftp: user-id:password@ftps://server/dir/filename | startup-config | tftp:tftps://server/dir/filename }
```

このコマンドの詳細については、『[CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5](#)』を参照してください。

このコマンドは、コマンドのコピー先に応じて双方向に機能します。

- 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする場合、次の例のように 1 行でコマンドを入力します。

```
se-10-0-0-0> copy running-config startup-config
```

- 実行コンフィギュレーションを FTP サーバまたは TFTP サーバにコピーする場合、このコマンドはインタラクティブになり、ユーザに情報の入力を求めます。パラメータは 1 行では入力できません。次の例では、実行コンフィギュレーションが FTP サーバにコピーされます。FTP サーバはユーザ名とパスワードを要求します。実行コンフィギュレーションは、「configs」という名前のディレクトリに「saved_start」という名前のファイルとしてコピーされます。

```
se-10-0-0-0> copy running-config ftp:
Address or name of remote host? admin:messaging@ftps://server/configs
Source filename? saved_start
```

ネットワーク TFTP サーバから別の場所への実行コンフィギュレーションのコピー

モジュール EXEC モードで、次のコマンドを使用して、ネットワーク TFTP サーバから別の場所を実行コンフィギュレーションをコピーします。

```
copy tftp: {running-config | startup-config} tftps://server/dir/filename
```

構文の説明

running-config	ハードディスク上のアクティブ コンフィギュレーション。
startup-config	ハードディスク上のスタートアップ コンフィギュレーション。
<i>tftp-server-url</i>	TFTP サーバの URL。

このコマンドはインタラクティブであり、ユーザに情報の入力を求めます。パラメータは 1 行では入力できません。次の例は、このプロセスを示しています。この例では、TFTP サーバ上の「configs」という名前のディレクトリに存在する「start」という名前のファイルが、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーされます。

```
se-10-0-0-0> copy tftp: startup-config
!!!WARNING!!! This operation will overwrite your startup configuration.
Do you wish to continue[y]? y
Address or name of remote host? tftps://server/configs
Source filename? start
```

ハードディスクメモリの装着アクティビティの確認

Cisco Unified SIP Proxy は、ハードディスクメモリの使用および装着をログとして追跡します。追跡データは、モジュールに保存されます。このデータを表示するには、モジュール EXEC モードで **show interfaces** コマンドを使用します。

次の例は、出力例です。

```
se-10-0-0-0> show interfaces
GigabitEthernet 0 is up, line protocol is up
Internet address is 10.10.1.20 mask 255.255.255.0 (configured on router)
```

■ ハードディスクメモリの装着アクティビティの確認

```
25629 packets input, 1688582 bytes
0 input errors, 0 dropped, 0 overrun, 0 frame errors
25634 packets output, 1785015 bytes
0 output errors, 0 dropped, 0 overrun, 0 collision errors
0 output carrier detect errors
IDE hd0 is up, line protocol is up
2060 reads, 32704512 bytes
0 read errors
489797 write, 2520530944 bytes
0 write errors
```